

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870600301		
法人名	株式会社 稲善		
事業所名	グループホーム いねの里 やすらぎの家		
所在地	茨城県筑西市下中山 381-1		
自己評価作成日	平成29年12月11日	評価結果市町村受理日	平成30年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いねの里やすらぎの家はH14年に開所してから早や16周年を迎えようとしています。新聞やテレビ等で認知症の話題が、毎日のように取り上げられているこの頃です。施設もベテランにならなければと毎日職員一同朝礼を行い、事故等起きないように取り組んでいるところです。いねの里は環境に恵まれ、グループホームの窓からは筑波山をはじめ 素晴らしい展望を眺める事が出来ます。又保育園や特養施設、又障害者の施設もあり、特に障害者施設の入所者との交流はグループホームの方の楽しみになっています。今まで同様保育園の子供たちとの交流も、癒しのひと時になっています。又広々とした敷地は、畑仕事や毎日の散歩、アニマルセラピーとしては山羊が放され、入居者との散歩時の楽しみになっています。保育園の子供の声の中に山羊の鳴き声等素晴らしい環境に感謝です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosyoCd=0870600301-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成30年 1月31日(水)



V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所等に理念等を掲げ、ときには朝礼時に確認し、交替で読み上げたり、実践に繋がられるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内に保育園があり、いつも決まった時間に太鼓の練習があり、入居者はその上達を楽しみにしたり、課外活動のお土産を持って来てくれたり、小学校からも地域の人々との交流等訪問学習があります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修に参加して学習してきたことを、職員の前で発表をし、質疑応答を行い、前向きに話し合い、入居者の理解を深められるようにしていますので、地域の人々にも発信していきたいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に一度民生委員や市役所の方々に出席をいただき、行っています。その中で入居者の状況などわかりやすく報告し、又ご家族にも理解して頂けるようにお知らせしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月市役所に入所状況等報告をしたり、地域包括担当者から入居者をご紹介していただいたりして実情を報告し出来る限り協力関係を築けるようにしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束にはどのような事や行為があるかを常に念頭に於いて、介護して行くように話し合いながら、介護にとりくんでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	朝礼時にどのような行為が虐待にあたるか等を話し合い、又一人一人の職員がストレス等を貯めないように悩みを共有しながら、介護にあたるよう努めています。		

茨城県 グループホームいねの里やすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている入居者には、その必要に応じて連絡をしながらご理解を頂いています。又日常生活自立支援も必要に応じて活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項等をきちんと読み上げ、疑問点などお聞きしながら、理解して頂くように行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内にはご意見箱を設置したり、又契約書等にも苦情等の申し立て先を記載し、その他話しやすい者に伝えてくれるようにしながら運営に反映出来るようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いねの里の管理者は、夜勤を行っている事もあり、毎日の朝礼や送りノートなどにも目を通されている事もあり、日々の職員一人一人の努力は理解されていると感じています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職は現在どこの職場でも不足の状況である為、管理者はいろいろな面で大変な思いをされていると思いますが、少しでも介護職が向上心を持って働けるように署名運動など行いました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のミーティング時に研修してきた職員が発表を行い、介護の実際の困難や専門職としての力量を理解して頂く様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームは365日のシフトである為、同業者との交流等困難があります。それでも出来るだけ研修会への出席を勧め、勉強の機会を作りサービスの質の向上を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では、入居者の情報を把握し、ご本人が今まで過されてきたのか等職員は踏まえ、その上でご本人のお話を伺いながら信頼関係を少しずつ築けるようにして行きます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話をお聞きしながら、出来る限り一番良いサービスをご家族に選んでいただきその中で、ひとつひとつ不安が無くなっていく行くように出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の経済状況等も大切なことですので、聞きにくい事もありますが、最初に出来ることと出来ない事は見極めなければなりません。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護理念である、人生の大先輩であることを念頭に於いて、常に傾聴を心掛け、気持ちに寄り添いながら接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人はご家族の事が、一番気になる事であり、大切にしている事です。契約時には入所後も、ご本人とご家族の絆を大切に、医者への受診介助、時々の帰宅、外出等お願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々入居者の同級生等、面会の連絡があった時には、ご家族にも連絡をして、許可をいただき、出来る限り入所前の関係が途切れないように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	27名の入居者の中には、気の合う方ばかりではなく、ときには不満を発したりすることもあり、話を聞いたり、慰め合ったり、声を掛け合ったり、入居者同志でも支え合っているところも多くみられます。		

茨城県 グループホームいねの里やすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係が終了する時は、他の施設に移った時、たまにですが体調が良くなって自宅へ戻られる方等ですが、必要に応じて、情報の提供等出来る限りの支援はしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の様子を見ながら、ご本人の思いをお聞きして対応をしていますが、困難な場合はユニット会議等で、検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には認定情報等で、今までの生活歴、病歴等、出来る限りの情報を把握し、入居者も信頼して、安心して生活できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り等で、ご本人の様子を把握し、有する力を維持できるように、自立支援を声掛け見守りして行きます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月末に各ユニットで6ヶ月毎の介護目標を立て、職員が同じ目標に向かって統一ケアを行っています。又目標は表に記載して職員が確認できるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌や送りノートを確認し、確認のサインをして情報を共有しています。ご本人にとってのケアが良いものとなれば嬉しい事です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の入居者の様子を見ながら、声かけをしたり、何をしたいのか探りながら、出来るだけ柔軟な支援が出来るようにしています。		

茨城県 グループホームいねの里やすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の散歩等は保育園の子供たちが気になる時には見学、花が咲いている時には花見、山羊がいる時には山羊と遊び、野菜が伸びている時には野菜を収穫、入居者は自由な気持で安全な豊かな暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は出来るだけかかりつけ医を優先し、ご家族の受診介助が得られるときには依頼し、適切な医療が得られるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日朝礼を行い、介護職は看護師の助言を適材適所の中で受けながら安心して介護を行っています。又看護師の助言で消毒、口腔ケア等行きとどいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはご家族にすぐに連絡をすると共に、ご家族のいない方には施設で支障が無いように対応し、必要な衣類等準備しご家族が困ることが無いように行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けては、看護師や、かかりつけ医、家族等が連絡や話し合いを行い、利用者の体調等を理解して頂く事に努めます。又入居時の契約時に説明を行い、救急時の対応について同意を頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時には、看護師が対応していますが、看護師が不在の時には同事業所の看護師に応援をしていただいたり、日頃の看護師の処置を参考にしながら、職員が応急手当をします。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しての訓練が多いですが、消防署員が立ち会いで訓練したり、主に施設内での訓練が多いです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議等で、利用者の個性を良く捉え、情報を共有して、プライドやプライバシーを損なわないように、言葉かけを注意するように話し合っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	申し送り等でご本人が発した言葉等を共有し、利用者の気持ちを理解し、それを実現できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人一人のペースや気持ちに沿って支援できるようにしています。その中で様子を見ながら自立支援の声かけも行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みや大きさ等、又その人に似合うかどうか等相談しながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者にとって一番の楽しみですので出来る限り楽しく、美味しく食べて頂くように支援していきたいです。一人一人の好みのものが食べられるように支援したいです。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事、量、水分等、一日を通して確保出来る様、利用者の状態等、細かく見守りするとともに、看護師の助言を受けながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の手指の消毒、毎食後のうがい、歯磨き等、一人一人に声掛け見守りしながら、口腔内の清潔の保持に努めています。		

茨城県 グループホームいねの里やすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄の状態を理解し、出来るだけ排泄の声掛け誘導を行い、オムツの利用を少なくするとともに、利用者の排泄の自立ができる様支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝礼時に利用者の状況の報告があり、個々に応じた看護師の助言があったり、運動や水分の補給、飲食物の工夫等、働き掛けを行い予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎朝のバイタルチェックのほかに、入浴前には再バイタルチェック等を行い、体調の良好を確認して入浴を行っています。職員は毎日の利用者の様子を見ながら個々に沿った支援をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝礼の申し送り時の様子を参考にしながら、一人一人のその時々状況に応じた休息や睡眠を確保して、精神的な安定が得られるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎朝、その日の内服薬を看護師が準備しており、スタッフは名前や時間等を確認して、服薬支援しています。又スタッフは利用者の病気や使用している薬等もきちんと理解できるように表に記載して確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食えることが大きな楽しみなので、月に2回のおやつ等のワゴン販売は人気があります。又近くの障害者施設へのお手伝い、畑仕事の種まきや収穫、毎日の施設の掃除や洗濯の手伝い等生き生きと参加されています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や、友人、兄弟等との外出、ご家族がいない利用者には施設の職員との外出、神社へのお参り、運動会やお祭りの見学等、出来る限りご本人のご希望をお聞きしながら支援しています。		

茨城県 グループホームいねの里やすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に於いてお金は管理され、必要に応じて欲しい者は購入できるようにしています。欲しい衣服や特別な食べ物や薬等お聞きしながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みはお断りしていますので、連絡をしたい方には、事務所から電話をかけるようにしています。お話をしたい時には、ご本人に電話でお話して頂いています。手紙でやりとりする方は現在はいません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にはスタッフが季節の花々や果物等、自宅の庭や畑、道端等で見かけたものを、入居者に見せてあげたいと考えながら、施設に持って来て飾ってくれています。入居者は眺めて話題にしたり、臭いをかいだり季節感を感じたりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に於いては、時々状況に於いて席替えをしたり、ときにはユニットを移動したり、問題が生じた時にはスタッフが話し合いを行い、出来るだけ一人一人の居場所が住みよい場所になるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する時には、ご家族やご本人と、良く話し合いを行い、必要最小限の中でも使い慣れたものや好みのものを持ってくることで、安心して居心地良く過ごせるように伝えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活を目標としていますが、高齢や歩行の不安定な入居者が多い状況である為、見守りと声かけをしながら、自立の維持、継続を願っています。		